

クラス会の幹事を任された井上は、久しぶりに中学校時代の友人に電話を入れた。

「はい、阿部です」

「夜分遅く恐れ入ります。井上と申しますけど、英一さんをお願いします」

「英一は昨日からクラブの合宿に行ってます、今日は帰って来ないんです。帰って来るのはあさつての夜になるんですけど、何か急用ですか？」

「実は僕、英一さんの中学校時代のクラスメイトなんですけど、来月クラス会をやることになったので、その連絡なんです」

「そうですか。では、あさつて英一が戻りましたら、すぐ連絡させるようになりますね。すみませんが、お名前をもう一度お願いします」

「井上厚と申します」

「井上厚さんですね。お家の方へお電話させればいいですか？」

「はい、お願いします。もし家にいない場合は、携帯電話の方にかけてもらえるように言ってもらえますか？ 一応番号を言っておきます。〇九〇―三二八一―四三七一です」

「〇九〇―三二八一―四三七一ですね。わかりました」

「よろしくお願いします。失礼します」

二日後、井上の家に阿部から連絡が入った。

「はい、井上です」

「夜分遅く恐れ入ります。阿部と申しますが、厚さんいらっしゃいますか？」

「もしもし阿部か、久しぶり」

「本当、久しぶりだな。おととい、連絡くれたそうだけどクラス会やるんだって？」

「そうなんだ。来月二十一日の土曜日に麻布でやることになったんだけど、阿部は出席できるかな？」

「時間は何時から？」

「一時からなんだけど」

「一時から麻布か・・・あいにくその日は部活の試合があるんだ。昼頃には終わる予定なんだけど、それから麻布まで行っても、ちょっと一時には間に合いそうにないな」

「安藤や上野も一時間遅れて来るって言うてるし、途中からでも出席できないか？ 小川先生もその日来ることになってるし、結構人数も集まりそうなんだ」

「そうだなあ、それじゃ早く終わったら顔を出すようにしようかな。一応、店の名前と場所を教えてよ」

「住所は東京都港区麻布台一―七―八、イタリアンガーデンっていうレストランなんだ。電話番号は〇三―三八五一―一二四一、大通り沿いにあるから場所はすぐわかると思うよ」

「わかった。ありがとう」

「それじゃ、当日楽しみにしてるよ」

井上はそう言って電話を切り、まだ出欠のはっきりしない何人かに再度、確認の電話を入れた。